

中国のアイドル・ファンは「バカ」なのか？  
—アイドル・グループ TFBoys のファンを事例として—

718105 GONG YUQING

主査:テヅカ ヨシハル 副査:阿部康人、平井辰典

キーワード:アイドル、ファン研究、TFBoys、飯圈文化、中国アイドル産業

---

## 1. 目的

本研究における「バカ」とは、「文化産業論」と「大衆欺瞞」の理論を取り上げ、熱狂的な消費者としてアイドルファンが、無意識のうちに資本側から支配され、量産された商品を購入した。しかし、アイドルファンは本当に「バカ」であるか？執筆者は、ファンを一定な自主性と創造力を持ち、一方的に資本側を支配されてなく、かえて一定な反抗性を持っていると考えている。したがって、TFBoys のファンを例として取り上げ、彼らの文化的活動の分析から、アイドルファンは一体一方的に資本側にコントロールされている「バカ」であるかを解明し、尚且つ主流メディアがアイドルファンに対する固定観念を変えたいと考えている。

## 2. 方法

(1)本研究はファンダム研究の中の代表学者ヘンリー・ジェンキンスの『テキストの密猟者』をメイン理論背景として研究を行っている。(2)本研究は対象者の「経験」を重視するエスノグラフィー研究方法を用いて、TFBoys のファンのライフストーリーを分析し、彼らの文化的活動を考察する。

## 3. 分析結果

本研究の考察結果から見ると:(1)ファンは能動性を有し、創作の過程に参加し、責任感と満足感を得ている;(2)ファンは自己意識を強調し、自主性の高いテキストを選択し創作に参加する;(3)ファンが行う活動には明確な目的が存在し、消費行為においても明確な消費意識を持っている;(4)ファンは創造力を有すると同時に反抗性も存在している;(5)ファンが積極的に生産的文化実践を行う過程には、感情的な快楽以外にも、個人の現実生活に反作用している。

## 4. 結論

以上の考察結果から、筆者はアイドルファンたち一方的に資本側を支配されている「バカ」ではないことを判明できたと考えている。アイドルファンは主流メディアの固定観念について、私はその主張は誤りがあると考えている。ネット時代のファンは受動的な傾聴者から自主的な記述者となり、自分の能動性を十分発揮している。ファンはバーチャルコミュニティやソーシャルメディアで莫大な力を有した集団を結成し、ファン文化形態を参加型へと発展させた。単なるアイドルを追いかける行為ではなく、ファンはこのような集団騒ぎがもたらした快楽と発散を楽しむ為、実行動でエンターテインメント産業に参加し、飯圈文化を社会現象へと発展させた。

## 5. 主要参考文献

- ・Jenkins, Henry. (1992) *Textual poachers: Television fans & Participatory culture*, New York: Routledge. (ヘンリー・ジェンキンス(2016)『テキストの密猟者(TEXTUAL POACHERS)(文本盗猎者--电视粉丝与参与式文化)』鄭熙青訳、北京大学出版社)
- ・ホルクハイマー・アドルノ(1947=2007)『「啓蒙の弁証法」哲学的断想』徳永恂訳、岩波文庫
- ・陶東風(2009a)『粉丝文化読本』北京大学出版社